

EPSON OPOS ADK for .NET マニュアル

ユーザーズリファレンス SetupPOS

Version 1.14.25 Dec. 2022

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) このソフトウェアは指定された装置以外には使用できません。
- (5) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft®、Windows®、Windows Server® および Windows Vista®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM® および PC/AT® は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

EPSON® は、セイコーエプソン株式会社の登録商標です。

ESC/POS® は、セイコーエプソン株式会社の登録商標です。

Bluetooth および Bluetooth ロゴは、米国 Bluetooth SIG, Inc. の商標です。

引用している会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

Copyright (c) 2005-2022 Seiko Epson Corporation

目次

第1章 はじめに	1
1.1 起動方法.....	1
1.2 メインウィンドウ	3
第2章 ユーザインタフェース詳細	4
2.1 メニュー項目	4
2.2 ツールバー	5
2.3 ツリー	6
2.4 デバイス設定パネル.....	7
2.4.1 [共通]タブ.....	7
2.4.2 [ポート]タブ.....	8
2.4.3 [デバイス設定]タブ.....	15
2.5 ステータスバー	16
2.6 デバイス設定の追加 ダイアログ.....	16
2.7 サービスの設定 ダイアログ	18
2.7.1 Trace設定.....	18
2.7.2 Statistics機能.....	18
2.7.3 互換性.....	19
2.7.4 通信の互換性.....	19
2.8 動作設定 ダイアログ	20
第3章 機能	21
3.1 デバイスの追加	21
3.2 デバイス設定の変更.....	21
3.3 デバイスの削除.....	22
3.4 デバイス設定の複製.....	22
3.5 デバイス設定の移動.....	23
3.6 設定の復元	23
3.7 インポート	23
3.8 エクスポート.....	23
3.9 保存	23
3.10 通信テスト	24
3.11 サービス設定.....	24
3.12 動作設定.....	25
3.13 自動展開.....	25
3.14 SetupPOSについて ダイアログ	25

第1章 はじめに

1.1 起動方法

以下のプログラムグループから **SetupPOS** を起動します。

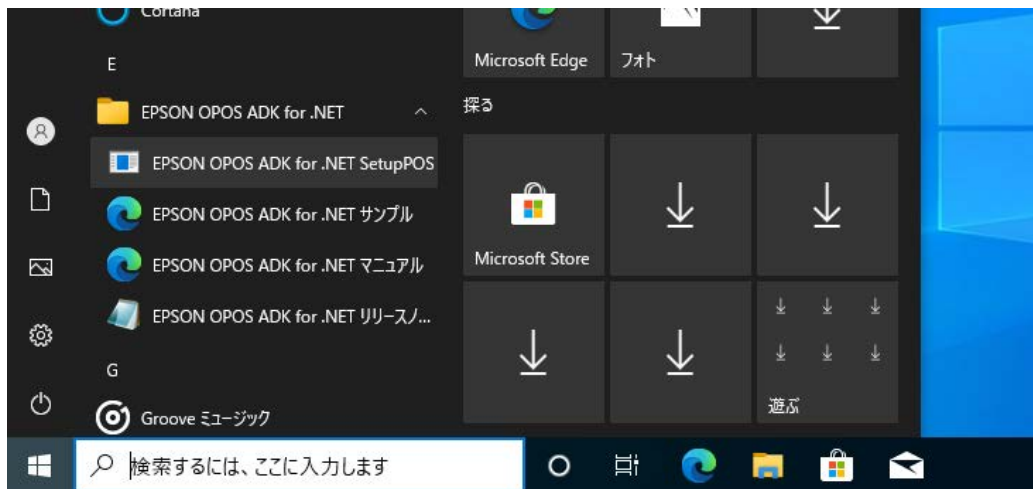


図 1 プログラムグループ

Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面のショートカットから起動します。



Windows 8.1 をお使いの場合は、スタート画面のショートカットから起動します。



SetupPOS を実行するには管理者権限が必要となります。管理者権限なしで実行した場合には、正しく動作しない可能性があります。スタートメニューの SetupPOS の上で右クリックして「管理者権限として実行」を選択してください。

1.2 メインウィンドウ

メインウィンドウの左側にはツリーが表示されます。ツリーについては、「[2.3 ツリー](#)」を参照してください。

メインウィンドウの右側にはタブで表示を切り替えられるデバイス設定パネルが表示されます。各タブについては、「[2.4 デバイス設定パネル](#)」を参照してください。

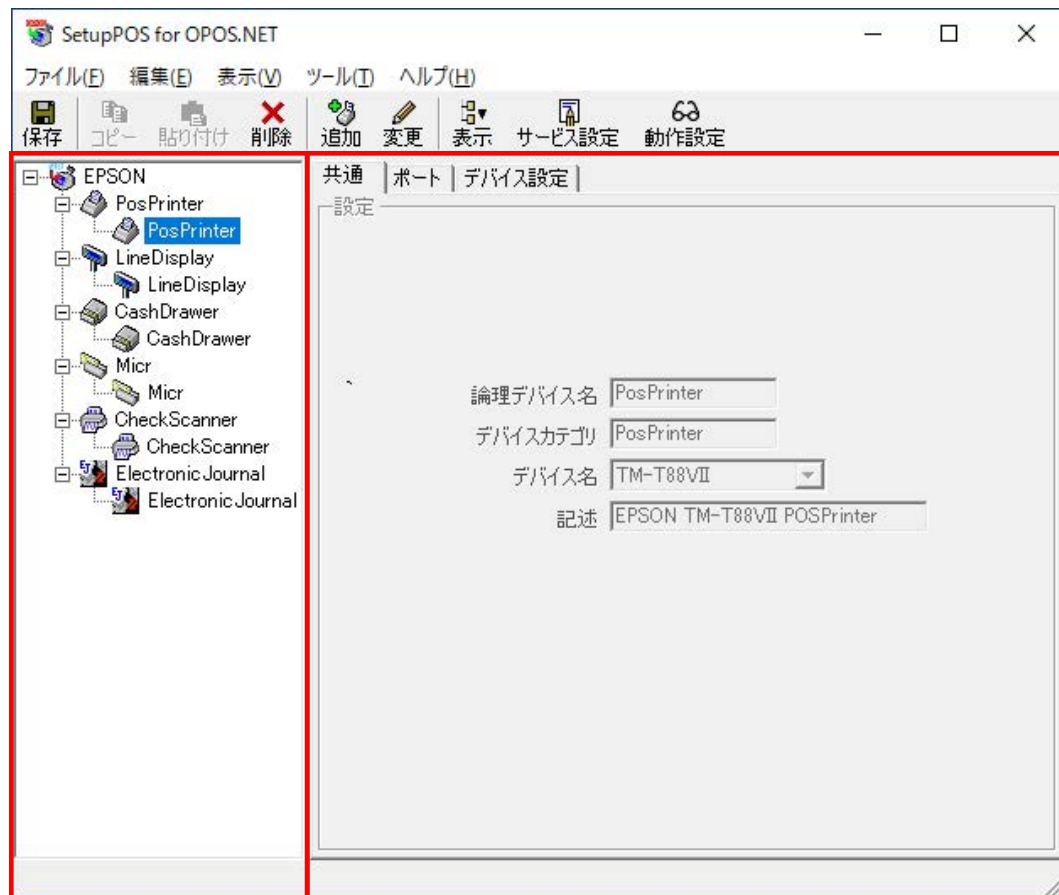


図 2 メインウィンドウ

ツリー

デバイス設定パネル

第2章 ユーザインタフェース詳細

2.1 メニュー項目

メニューの構造は以下のとおりです。

- ファイル(F)
 - 保存(S) Ctrl+S (参照「[3.9 保存](#)」)
 - 復元(R) (参照「[3.6 設定の復元](#)」)
 -
 - インポート(I)... (参照「[3.7 インポート](#)」)
 - エクスポート(O)... (参照「[3.8 エクスポート](#)」)
 -
 - 終了(X)
- 編集(E)
 - コピー(C) Ctrl+C (参照「[3.4 デバイス設定の複製](#)」)
 - 貼り付け(P) Ctrl+V (参照「[3.4 デバイス設定の複製](#)」)
 - 削除(D) Del (参照「[3.3 デバイスの削除](#)」)
 -
 - 追加(A)... Ctrl+I (参照「[3.1 デバイスの追加](#)」)
 - 変更(M) Ctrl+M (参照「[3.2 デバイス設定の変更](#)」)
- 表示(V)
 - ツールバー(T) (参照「[2.2 ツールバー](#)」)
 - ステータスバー(S) (参照「[2.5 ステータスバー](#)」)
 -
 - 論理デバイス名で並び替え
 - カテゴリで並び替え
 - 通信形態で並び替え
 -
 - ツリーの自動展開(E) Ctrl+A (参照「[3.13 自動展開](#)」)
- ツール(T)
 - サービスの設定(S)... (参照「[3.11 サービス設定](#)」)
 - 動作設定(P)... (参照「[3.12 動作設定](#)」)
- ヘルプ(H)
 - SetupPOS について(A) (参照「[3.14 SetupPOSについて ダイアログ](#)」)

2.2 ツールバー

ツールバーには以下のアイコンがあります。

- 保存 (参照「[3.9 保存](#)」)
-
- コピー (参照「[3.4 デバイス設定の複製](#)」)
- 貼り付け (参照「[3.4 デバイス設定の複製](#)」)
- 削除 (参照「[3.3 デバイスの削除](#)」)
-
- 追加 (参照「[3.1 デバイスの追加](#)」)
- 変更 (参照「[3.2 デバイス設定の変更](#)」)
-
- 表示 (参照「[2.3 ツリー](#)」)
 - ・ 論理デバイス名で並び替え
 - ・ カテゴリで並び替え
 - ・ 通信形態で並び替え
-
- サービス設定 (参照「[3.11 サービス設定](#)」)
- 動作設定 (参照「[3.12 動作設定](#)」)

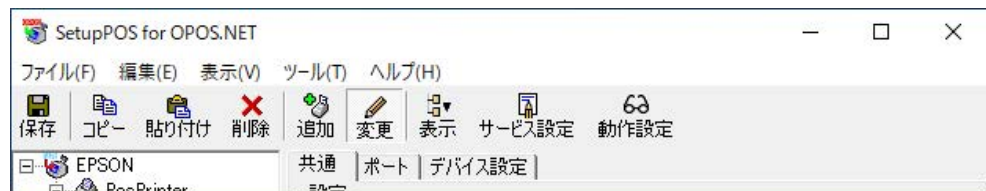


図 3 小さいアイコンのツールバー

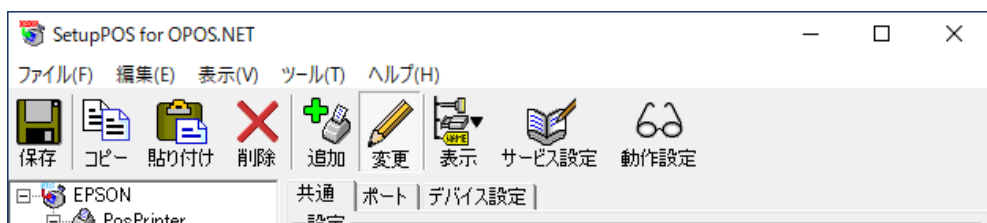


図 4 大きいアイコンのツールバー

2.3 ツリー

ツリーにはデバイスの一覧が表示されます。デバイス固有の識別子として、各デバイスカテゴリの論理名が使用されます。そのため、同じデバイス名を複数のデバイスで使用することはできません。

ツリーの表示方法は以下の 3 通りです。

- 論理デバイス名(アルファベット順)

各デバイスには論理デバイス名というプロパティがあります。ツリーはこのプロパティのアルファベット順にソートされます。

- デバイスカテゴリ(エプソンの表示順)

エプソンの表示順では、デバイスがデバイスカテゴリ別に分類され、各カテゴリ内で論理デバイス名のアルファベット順にソートされます。

デバイスカテゴリの順番は以下のとおりです。

- PosPrinter
- LineDisplay
- CashDrawer
- Micr
- CheckScanner
- Electronic Journal
- 上記以外のデバイスカテゴリは上記一覧の後にアルファベット順に表示されます。

- 接続タイプ

ポートタイプを基準にした場合、ツリーは以下の順にソートされます。

- シリアル
- パラレル
- USB
- 有線 LAN
- 無線 LAN
- Bluetooth

ツリーをカスタマイズして、すべてのブランチを自動的に展開することもできます。

接続タイプで表示している場合は、デバイスのドラッグアンドドロップがサポートされています。デバイスを別の接続タイプにドラッグアンドドロップすると、接続のプロパティが移動先固有のプロパティに変更されます。

2.4 デバイス設定パネル

デバイス設定パネルには以下の 3 つのタブが表示されます。ほとんどのデバイスでこれら 3 つのタブが表示されます。

- [共通]タブ (参照「[2.4.1 \[共通\]タブ](#)」)
- [ポート]タブ (参照「[2.4.2 \[ポート\]タブ](#)」)
- [デバイス設定]タブ (参照「[2.4.3 \[デバイス設定\]タブ](#)」)

2.4.1 [共通]タブ

[共通]タブはデバイス設定パネルのデフォルトタブです。

- [論理デバイス名]はデバイスカテゴリ内のユニークなデバイスのキーを表しています。フィールドが空欄、またはすでに存在する値が指定されている場合は、ステータスバーにエラーメッセージが表示されます。
- [デバイスカテゴリ]の値はデバイスを追加するときに選択されますが、その値により、[デバイス設定]タブに何が表示されるか決定します。一度デバイスを追加すると、この値は変更できません。
- [デバイス名]により、[ポート]タブに表示される値が決定します。

The screenshot shows the '共通' (Common) tab selected in the 'デバイス設定' (Device Settings) panel. The '設定' (Settings) section contains the following fields:

- 論理デバイス名: PosPrinter
- デバイスカテゴリ: PosPrinter
- デバイス名: TM-T88VII (dropdown menu)
- 記述: EPSON TM-T88VII POSPrinter

図 5 [共通]タブ

2.4.2 [ポート]タブ

このタブのプロパティ値は、[共通]タブで選択された[デバイス名]によって決定します。選択できるポートのタイプは以下の 6 つです。

- シリアル
- パラレル
- USB
- 有線 LAN
- 無線 LAN
- Bluetooth

ポートのタイプが変更されると、ポート独自の値がデフォルト値に設定されます。

The screenshot shows the 'Port' tab of the SetupPOS configuration window. At the top, there are three tabs: '共通' (Common), 'ポート' (Port), and 'デバイス設定' (Device Settings). The 'ポート' tab is selected. Below the tabs, there is a section titled '接続形式' (Connection Type) with a dropdown menu labeled 'ポートの種類' (Port Type) set to 'シリアル' (Serial). Below this is a section titled 'シリアル専用設定' (Serial Dedicated Settings). This section contains several settings: 'ポート名' (Port Name) is 'COM1', '出力バッファサイズ' (Output Buffer Size) is '4096', 'ビット/秒' (Baud Rate) is '19200 bps', 'データビット' (Data Bits) is '8ビット' (8 bits), 'パリティ' (Parity) is 'なし' (None), 'ストップビット' (Stop Bits) is '1ビット' (1 bit), and 'フロー制御' (Flow Control) is 'DTR/DSR'.

図 6 [ポート]タブ - シリアルの設定

The screenshot shows a software window with three tabs: '共通' (Common), 'ポート' (Port), and 'デバイス設定' (Device Setting). The 'ポート' tab is active. It is divided into two sections. The top section, titled '接続形式' (Connection Form), contains a dropdown menu labeled 'ポートの種類' (Port Type) with 'パラレル' (Parallel) selected. The bottom section, titled 'パラレル専用設定' (Parallel Dedicated Setting), contains two text input fields: 'ポート名' (Port Name) with 'LPT1' and '出力バッファサイズ' (Output Buffer Size) with '4096'.

図 7 [ポート]タブ - パラレルの設定

The screenshot shows the same software window as Figure 7, but with the 'ポート' tab settings for USB. The '接続形式' (Connection Form) section has the 'ポートの種類' (Port Type) dropdown set to 'USB'. The 'USB 専用設定' (USB Dedicated Setting) section contains two fields: 'ポート名の指定方法' (Port Name Designation Method) set to 'デバイス名' (Device Name) and 'ポート名' (Port Name) set to 'TM-U675'.

図 8 [ポート]タブ - USB の設定(設定方法 1 の機種の場合)

The screenshot shows the 'Port' tab of the SetupPOS application. At the top, there are three tabs: '共通' (Common), 'ポート' (Port), and 'デバイス設定' (Device Setting), with 'ポート' being the active tab. Below the tabs, there are two main sections. The first section, titled '接続形式' (Connection Form), contains a label 'ポートの種類' (Port Type) and a dropdown menu currently set to 'USB'. The second section, titled 'USB 専用設定' (USB Dedicated Setting), contains a label '接続するポート' (Port to Connect) and a dropdown menu currently set to 'NewTMPORT[TM-T88VII]PosPrinter'.

図 9 [ポート]タブ - USB の設定(設定方法 2 の機種の場合)

The screenshot shows the 'Port' tab of the SetupPOS application. At the top, there are three tabs: '共通' (Common), 'ポート' (Port), and 'デバイス設定' (Device Setting), with 'ポート' being the active tab. Below the tabs, there are two main sections. The first section, titled '接続形式' (Connection Form), contains a label 'ポートの種類' (Port Type) and a dropdown menu currently set to '有線LAN' (Wired LAN). The second section, titled 'LAN 専用設定' (LAN Dedicated Setting), contains a label 'IPアドレス' (IP Address) and a text input field currently containing '0.0.0.0'.

図 10 [ポート]タブ - 有線 LAN の設定
10

共通 ポート デバイス設定

接続形式

ポートの種類 無線LAN ▼

LAN 専用設定

IPアドレス 0.0.0.0

図 11 [ポート]タブ - 無線 LAN の設定

共通 ポート デバイス設定

接続形式

ポートの種類 Bluetooth ▼

Bluetooth専用設定

ポート名 COM1

図 12 [ポート]タブ - Bluetooth の設定

2.4.2.1 USB

機種によって設定方法が異なります。

設定方法 1 を使用する機種：

TM-H5000II、TM-H5200、TM-J7000、TM-J7100、TM-J7500、TM-J7600、TM-U230、
TM-U675、TM-U950

設定方法 2 を使用する機種：

設定方法 1 に記載のない機種

設定方法 1

ポート名の設定方法では、下記のものが選択できます。

- ・デバイス名

デバイス名で、ポートを検索します。通常はこちらを選択してください。

同一種類の機種を複数使用することはできません。

複数使用する場合は、後述の「複数同時に使用する場合」を参照してください。

- ・ポート名

USB のシンボリックリンク名で、デバイスを検索します。

- ・UIB のシリアル番号

UIB のシリアル番号で、デバイスを検索します。

- ・最初に見つけたもの

接続されている **EPSON** デバイスを検索し、最初に見つかったものを使用します。この設定では、1 台のデバイスしか使用できません。複数使用する場合は、後述の「複数同時に使用する場合」を参照してください。

LineDisplay と CashDrawer の注意事項

ConnectionType 選択画面で「USB」を選択すると、「設定方法 2」の設定画面が表示されます。次に、共通選択画面で「接続プリンタ」を変更すると、「USB 固有設定」の設定画面が変わります。

同一機種の論理デバイスを複数登録する場合は設定変更が必要です。「USB 固有の設定」ウィンドウを再度表示して、設定を調整します。

複数同時に使用する場合

複数同時に使用する場合は、以下の手順に従ってください。

- 1) **USB** のポート設定の[ポート名の指定方法]を[**UIB** のシリアル番号]に設定します。
- 2) ポート名として、**USB** のシリアル番号を指定します。

USB のシリアル番号とは、**USB** 専用に用意されているシリアル番号のことです。**USB** のシリアル番号は、プリンタのセルフテストの実行で確認できます。

印字結果によって、シリアル番号を識別します。

印字した結果が **a)**の形式の場合は、"**ID**"で示される部分が **USB** のシリアル番号になります（下記の場合、YYYYYYYYYYYYYYY の部分がシリアル番号です）。

印字した結果が **b)**の形式の場合は、**USB** のシリアル番号はプリンタ本体のシリアル番号と同じになっています。この場合、プリンタ本体に貼付されているラベルをご確認ください。

a) **USB** のシリアル番号が印刷される場合

```

-----
      :
Firmware Version X.XX ESC/POS
Interface UB-UXXXX Ver.X.XX
ID   :YYYYYYYYYYYYYYY
      :
      :
-----

```


b) USB のシリアル番号が印刷されない場合

```

-----
:
Firmware Version X.XX ESC/POS

USB Interface or other
:
:
-----

```

※上記"USB Interface or other"の部分は、単に"USB Interface"と印字される場合もあります。

なお、この方法を用いてデバイスを設定している場合は、USB のシリアル番号が異なっているデバイスと交換すると、その都度、SetupPOS の設定を変更する必要がありますのでご注意ください。

設定方法 2

接続するポートの選択では、デバイスが接続される論理的なポートを指定してください。論理的なポートとは、「TMPORTxxx」を指します。xxx はポート番号が入ります。

- ・ 「新規ポート作成」を選択した場合、新たに論理ポートを作成し、論理デバイスと作成した論理ポートを関連付けます。
- ・ リストに存在するいずれかの論理ポートを選択した場合、論理デバイスは指定された論理ポートに関連付けます。

最初のデバイスの登録をする場合

「新規ポート作成」を選択して、論理ポートを作成して割り当てを行ってください。

同一機種の論理デバイスを複数台登録する場合

それぞれの登録で「新規ポート作成」を選択して論理ポートを作成し、別々の論理ポートを割り当ててください。

PosPrinter のほかに、Micr、CheckScanner、ElectronicJournal も同一デバイスで使用する場合

全てのデバイスを同一の論理ポートに割り当ててください。

プリンタに LineDisplay と ChashDrawer を接続する場合

全てのデバイスを同一の論理ポートに割り当ててください。

論理ポート情報は、「Save」ボタンで確定します。確定される前と後で、表示方法が変わります。

「Save」ボタンで確定される前

「NewTMPORT」

「Save」ボタンで確定された後

「TMPORT」

以下の条件下では、初めて **SetupPOS** でデバイスを登録するときに、既に論理ポートが存在している場合があります。この場合は、論理ポートの割り当てを設定しなおしてください。

- ・ デバイスの登録を行う前に、デバイスを接続した場合
- ・ 他の **EPSON** 製ソフトウェアがインストールされている場合
- ・ デバイスが登録された環境で、アンインストール、インストールを行った場合

2.4.2.2 Bluetooth

ポート名には、**Bluetooth** デバイスの **COM** ポートを入力します。

例：COM5 など

SetupPOS で **Bluetooth** デバイスを登録する前に、**Bluetooth** デバイスの **COM** ポートの設定をしてください。

2.4.3 [デバイス設定]タブ

[共通]タブの[デバイスカテゴリ]の値によって、このタブに何が表示されるか決定します。

[デバイス設定]タブについて詳しくは、各デバイスのアプリケーション開発ガイドを参照してください。

2.5 ステータスバー

ステータスバーにはアプリケーションの機能に関する有用な情報が表示されます。また、エラーメッセージも表示されます。

2.6 デバイス設定の追加 ダイアログ

デバイス設定の追加ダイアログで、使用するデバイスを追加します。最大で 3 つのパネルが、1 つずつ表示されます。パネルを移動するときは[次へ]、[戻る]ボタンをクリックします。最後のページでは、[次へ]ボタンが[終了]ボタンに変わります。[キャンセル]ボタンをクリックすると、デバイスを追加せずにダイアログを終了します。

ステータスバーには、そのパネルの無効な値に関するエラーメッセージが表示されます。無効な値が存在する場合は、テキストボックスの内容が赤字で表示され、[次へ]、[終了]ボタンをクリックできません。

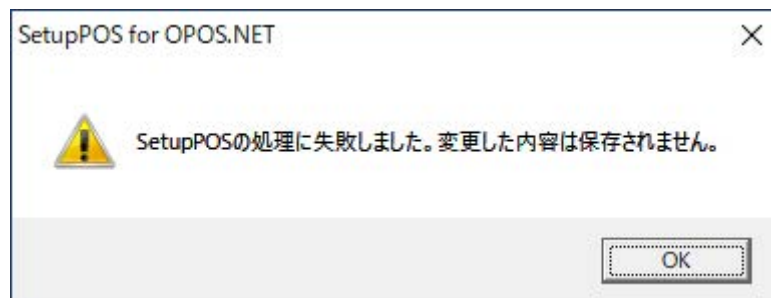
最初のパネルのデバイスカテゴリとデバイス名によって、他のパネルで表示される内容が変わります。

以下の画面は最初のパネルです。

図 13 デバイス設定の追加 ダイアログ

[終了]ボタンをクリックすると、デバイスがメインウィンドウのツリーに追加され、詳細が右側のデバイス設定パネルに表示されます。デフォルトでは、このウィンドウは編集できません。編集方法については、「[3.2 デバイス設定の変更](#)」を参照してください。

通信設定が正しく行えない場合がありますので注意してください。その場合、以下のエラーメッセージが表示されます。



この場合、SetupPOS を終了させた後にコマンドプロンプトを開き、“net stop EPSON_Port_Communication_Service” と打ち込んで実行してください。次に、SetupPOS を再起動してデバイスを登録してください。

2.7 サービスの設定 ダイアログ

サービスの設定ダイアログでは、トレース、Device Statistics、互換性のプロパティを変更できます。

2.7.1 Trace 設定

Trace 機能の設定には以下の 3 つの項目があります。

- トレーシングを可能にする

Trace 機能の有効/無効を設定します。

デフォルトでは無効にされています。

- トレースファイル

トレース情報を保存するファイル名を設定します。

トレース機能が有効に設定されているときに設定の変更ができます。

トレースファイルの格納場所は下記になります。

(システムドライブ):¥ProgramData¥ EPSON¥pos¥tm¥Trace¥

- 最大ファイルサイズ

トレース機能を保存するファイルの最大サイズを設定します。

トレース機能が有効に設定されているときに設定の変更ができます。

トレースファイルのサイズが指定された最大サイズを越えた場合にトレースファイルのバックアップが作成されます。

既にバックアップファイルが作成されている状態で、再度バックアップファイルを作成する状況になった場合、古いファイルを上書きします。

Trace 機能の設定を変更すると、すべてのデバイスについて、Trace 機能のプロパティが更新されます。

2.7.2 Statistics 機能

Device Statistics はデフォルトで ON になっています。Device Statistics の ON/OFF を変更すると、すべてのデバイスについて、Device Statistics のプロパティが更新されます。

2.7.3 互換性

OPOS.NET1.9 の互換性の設定をします。

チェックなし：

OPOS .NET Version 1.9 互換性なし

初期化处理、周辺機器デバイスのエラーコードの切り替え、エラーイベント処理が、UPOS1.11 の仕様で動作します。(UPOS 仕様)

チェックあり：

OPOS .NET Version 1.9 互換性あり

初期化处理、周辺機器デバイスのエラーコードの切り替え、エラーイベント処理が、UPOS1.11 以前の仕様で動作します。(EPSON 仕様)

デフォルトはチェックなしです。

2.7.4 通信の互換性

通信の互換性を設定します。

チェックなし：

USB とシリアルの互換はありません。**USB** は通常の **USB** で動作します。

チェックあり：

USB とシリアルで互換があります。**USB** 接続は、シリアル接続と同等の動作になります。

デフォルトはチェックなしです。

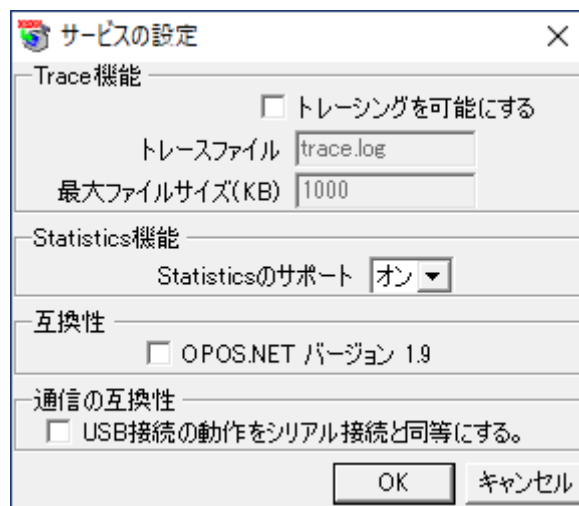


図 14 サービスの設定 ダイアログ

2.8 動作設定 ダイアログ

動作設定ダイアログでは、SetupPOS の表示に関連するプロパティを設定できます。設定は次回の実行時に反映されます。

以下の 3 つの設定項目があります。

- 使用言語

英語と日本語がサポートされています。

ロケールを決定できない場合、デフォルトの英語が使用されます。

- アイコンのオプション

ツールバーのアイコンの大小を選択できます。なお、ツリーアイコンの大きさは固定です(参照 図3、図4)。

- ツールバーにテキスト表示

ツールバーのボタンにテキストを表示させるかどうかを設定できます。表示させる場合は、チェックマークを付けます。

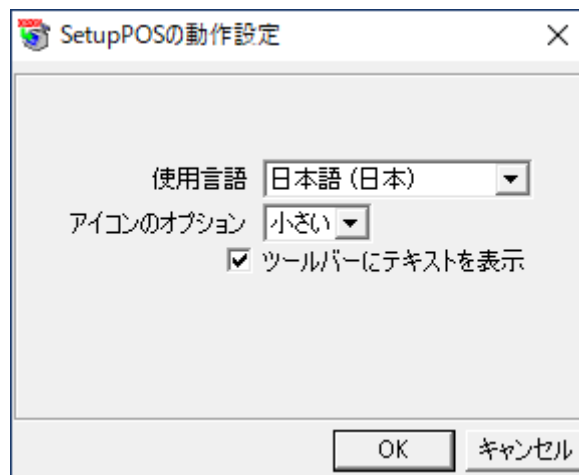


図 15 動作設定 ダイアログ

第3章 機能

SetupPOS がサポートする機能の一部を説明します。

3.1 デバイスの追加

デバイス設定の追加ダイアログでは、ウィザード形式でデバイスの追加を行うことができます。ダイアログの呼び出し方法は以下のとおりです。

- ツールバーの[追加]ボタンをクリックする。
- [編集]メニューから[追加]をクリックする。
- ツリーのコンテキストメニューで[追加]をクリックする。
- ショートカットキー：Ctrl + I

追加したデバイスは保存したときにファイルに追加されます。

デバイス設定の追加ダイアログでの動作については、「[2.6 デバイス設定の追加ダイアログ](#)」を参照してください。

3.2 デバイス設定の変更

デバイスを選択すると、選択したデバイスのプロパティがデフォルトのビューに編集不能の状態が表示されます。以下の方法で編集可能にすることができます。

- ツールバーの[変更]ボタンをクリックする。
- [編集]メニューから[変更]をクリックする。
- デバイスを選択し、コンテキストメニューで[変更]をクリックする。
- ショートカットキー：Ctrl + M

プロパティが変更され、その値が有効でない場合は、ステータスバーにエラーメッセージが表示されます。

このモードを終了するときは、ツリーで別のデバイスを選択するか、上記の方法をもう一度実行してください。

このモードを終了したとき、変更された値はメモリに保存されます。これらの値をファイルに保存するときは、[保存]ボタンをクリックしてください。任意のデバイスについて変更された値を元に戻すことはできません。ただし、復元機能を使用することで、すべてのデバイスの状態を前回保存されたときの状態に戻すことができます。復元機能については、「[3.6 設定の復元](#)」を参照してください。

SetupPOS は、他のソフトウェアによって既に登録されているデバイスのシリアルポートの設定変更には対応しておりません。この場合は、最初に登録を行ったソフトウェア内で設定を変更してください。それから、SetupPOS で同じ設定内容にして保存してください。

3.3 デバイスの削除

デバイスを選択した状態で、以下のいずれかの操作を行ってください。デバイスを削除する方法は 4 通りあります。

- ツールバーの[削除]ボタンをクリックする。
- [編集]メニューから[削除]をクリックする。
- デバイスを選択し、コンテキストメニューで[削除]をクリックする。
- ショートカットキー：[Del]

ツリーで選択した項目がデバイスでない場合は、削除機能は無効です。

3.4 デバイス設定の複製

SetupPOS では、デバイス設定を複製できます。複製は、[コピー]/[貼り付け]を使用して、以下の方法で行います。

- ツールバーの[コピー]ボタン/[貼り付け]ボタンをクリックする。
- [編集]メニューから[コピー]/[貼り付け]をクリックする。
- デバイスを選択し、コンテキストメニューで[コピー]/[貼り付け]をクリックする。
- ショートカットキー：Ctrl + C/ Ctrl + V

複製したいデバイスを選択後、コピーしてから、貼り付けを行います。

貼り付けを行うと、論理デバイス名変更ダイアログが表示されます。このダイアログで新しい論理デバイス名を指定します。デバイスの名前は、名前の候補が表示されますので、候補から選択すると簡単に設定できます（変更もできます）。また、候補から選択せずに、任意の名前を設定した場合は、その論理デバイス名として有効でユニークなものであるか確認されます。

ツリー表示が通信形態で並べ替えられている場合に[貼り付け]をすると、ツリーで選択されている通信ポートに複製されます。この場合、ポート設定が変更される場合があります。例えば、シリアル接続のデバイスを[コピー]して USB 接続に[貼り付け]した場合、そのデバイスは USB 接続になり、SetupPOS が保持している USB 固有のデフォルト値が設定されます。

選択されたツリーの項目がデバイスでない場合は、コピーできません。また、起動時、およびデバイスのコピーをしていないと貼り付けはできません。

なお、エプソン製以外のデバイス設定は、複製できません。

3.5 デバイス設定の移動

移動機能はドラッグアンドドロップで行います。ツリーの表示が通信形態で並べ替えられている場合のみ使用可能です。

デバイスをドラッグするときは、マウスの右、または左ボタンをクリックして移動するデバイスを選択し、マウスボタンを押したままデバイスを移動してください。マウスボタンを放すとデバイスが移動します。

以下の場合、ドラッグアンドドロップ操作は無視されます。

- ツリーが接続タイプで表示されていない。
- ドロップした場所がツリー内ではない。
- ドロップした場所がデバイスのサポートする接続タイプではない。
- ドラッグした項目がデバイスではない。

デバイスをドロップすると、ポートの設定が変更されます。

3.6 設定の復元

復元機能を実行すると、すべてのデバイス設定の情報を、保存した設定ファイルの状態に戻すことができます。

復元機能を実行する場合は、[ファイル]メニューで[復元]を選択します。

保存していない変更が存在する場合は、変更を破棄します。この場合、操作を続けるか、キャンセルするかを選択するためのポップアップメッセージが表示されます。

3.7 インポート

[ファイル]メニューから[インポート]を選択すると、ファイルを **SetupPOS** にインポートできます。

一部のエントリと競合している場合は、競合を通知するメッセージが表示され、インポートを続行するか、操作をキャンセルするかを選択できます。インポートの続行を選択した場合は、競合するエントリは無視されます。

3.8 エクスポート

[ファイル]メニューから[エクスポート]を選択すると、すべてのデバイスを含めて、デバイスのツリーを指定するファイルにエクスポートできます。

3.9 保存

SetupPOS で編集した内容を設定ファイルに保存します。

保存機能を選択する方法は 3 通りあります。

- ツールバーの[保存]ボタンをクリックする。
- [ファイル]メニューから[保存]をクリックする。
- ショートカットキー : **Ctrl-S**

変更箇所がない場合は保存できません。

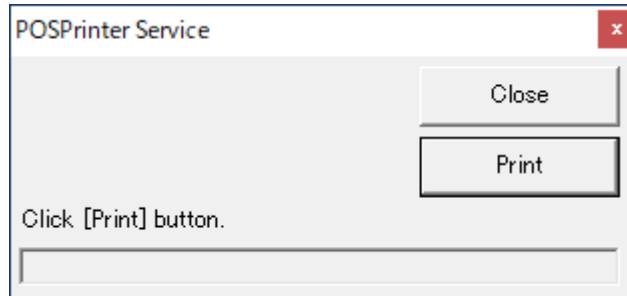
※設定変更が無い場合に **Save** ボタンが有効になっても、設定内容は変更されません。

3.10 通信テスト

選択されたデバイスの動作確認ができます。

- ツリーのコンテキストメニューで[CheckHealth]をクリックする。

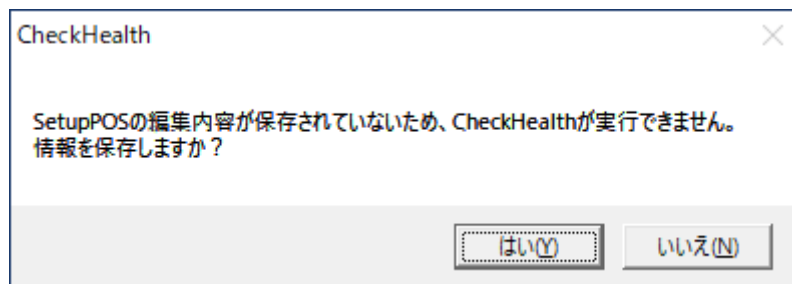
CheckHealth を実行すると次のダイアログボックスが表示されます。



※デバイスにより表示されるダイアログが異なります。

CheckHealth を実行するには、SetupPOS での編集内容が設定ファイルに保存されている必要があります。

編集内容が保存されていない状態で実行した場合は、保存を求めるダイアログが表示されます。



3.11 サービス設定

[ツール]メニューからサービスの設定ダイアログを表示できます。

サービスの設定ダイアログでは、サービスで使われる一部のプロパティを設定できます。

サービスの設定ダイアログでの動作については、「[2.7 サービスの設定 ダイアログ](#)」を参照してください。

3.12 動作設定

[ツール]メニューから動作設定ダイアログを表示できます。

動作設定ダイアログでは、**SetupPOS** で使用される一部のプロパティを設定できます。

動作設定ダイアログでの動作については、「[2.8 動作設定 ダイアログ](#)」を参照してください。

3.13 自動展開

[表示]メニューの[ツリーの自動展開]では、ツリーの項目を展開と折りたたみができます。

項目にチェックマークを付けるとそのツリーが展開します。[ツリーの自動展開]のチェックマークを外すとツリーを折りたたみます。このとき、最後に表示したデバイスだけは折りたたまれず展開したまま残ります。これにより、どのエントリが表示されているかを確認できます。

3.14 SetupPOS について ダイアログ

[ヘルプ]メニューから **SetupPOS** についてダイアログを表示できます。

このダイアログには、**SetupPOS** を動作させるために必要なファイルのバージョン情報が表示されます。